

日本語と中国語の「ほめ」の談話における後続連鎖： 談話構造の観点から

王, 欣
九州大学大学院地球社会統合科学府

<https://doi.org/10.15017/1959204>

出版情報：地球社会統合科学研究. 9, pp.1-8, 2018-09-25. Graduate School of Integrated Sciences for Global Society, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

日本語と中国語の「ほめ」の談話における後続連鎖

—談話構造の観点から—

オウ
王

シン
欣

1. はじめに

「ほめ」は、人間関係の構築や維持に重要な役割を果たしている言語行動であり、相手との距離を縮め、相手から好感を持たれることで、ほめる側もほめられる側も心地よく会話をスムーズに運ぶきっかけを作ると言われている。とりわけ、日本語と中国語の類似点はよく知られ、「ほめ」の場面においても違いがないのではと思われがちである。井出(2006:235)は、違う文化を理解するには、どこが同じで、どこが違うかを明らかにする必要があると指摘した。したがって、日本語と中国語の「ほめ」の談話の特徴を明らかにするためには、日本語と中国語の対照研究が必要不可欠である。

本稿では、日本と中国の自然会話をデータとし、「ほめ」の談話の後に行われる後続連鎖を中心に、日本語と中国語のそれぞれの談話展開の特徴を分析することで、日本語と中国語の「ほめ」の実態を明らかにしたい。

本稿は熊取谷(1989)、大野(2010)に基づき、以下の用語を用いる。

「本連鎖」 「ほめ」の談話において「ほめ-返答」という隣接対から成る行為連鎖

「先行連鎖」 本連鎖の前に、「ほめ」と何らかの関連のある実質的発話から始まる本連鎖までのやり取り

「後続連鎖」 本連鎖の後ろに、(笑いや相づちの発話を除く)実質的発話から始まるやり取り

2. 先行研究の概観及び本稿の研究課題

2.1 先行研究の概観

2.1.1 「ほめ」の定義

本稿で用いる「ほめ」の定義を述べる前に、先行研究での「ほめ」の定義をまとめる。先行研究の中で「ほめ」の定義を行ったものには、Holmes(1988)、小玉(1996)、川口他(1996)等があり、以下に紹介する。Holmes(1988:446)

A compliment is a speech act which explicitly or implicitly attributes credit to someone other

than the speaker, usually the person addressed, for some 'good' (possession, characteristic, skill.etc.) which is positively valued by the speaker and the hearer.

(「ほめ」¹⁾とは、話し手は聞き手に明示的、あるいは暗示的に'良い'(例えば、聞き手の所属物、特徴、技能等)といった肯定的な評価を伝え、また、話し手と聞き手、両方とも積極的に認めあう言語行動である。)

この定義は「ほめ」とはどのような言語行動かを示し、今後の「ほめ」に関する研究に示唆を与えた。小玉(1996)はHolmes(1988)の定義を基にして、「ほめ」の定義を以下のように述べた。

小玉(1996:61)

「ほめ」とは話し手が聞き手、聞き手の家族やそれに類するものに関して“よい”と認める様々なもの、或いはことに対して、聞き手を心地よくさせることを前提に、明示的に、暗示的に、肯定的な評価を与える行為である。

川口・蒲谷・坂本(1996)では、「表現意図」の観点からほめを「実質ほめ」と「形式ほめ」に分けた。

川口他(1996:15-16)

実質ほめ：相手自身、相手に関する物事などについて心から高い評価を表現した時のものである。

形式ほめ：ほめること自体に表現の意図はなく、別の表現意図のために行うほめである。

この定義は「ほめ」の分類を示しているが、どこから「心から高い評価」と言えるのか、また、コミュニケーションを行う場面では、「ほめること自体に表現の意図」と「別の表現意図」とをはっきり判明できないと言えよう。

以上の先行研究において、小玉(1996)は、「ほめ」の対象(すなわち、聞き手あるいは聞き手の家族やそれに類するものに関して“よい”と認める様々なもの或いはこと)、「ほめ」の機能(すなわち、話し手が聞き手を心地よくさせること、「ほめ」の表現(明示的にあるいは暗示的に、肯定的な評価を与える)を明記しているた

め、本稿では小玉（1996）の定義を援用する。今後は実際の会話で使用されている「ほめ」の表現意図と機能を考慮して「ほめ」の定義を再考する。

2. 1. 2 日本語の「ほめ」に関する先行研究

日本語の「ほめ」の機能に関して、熊取谷（1989）は、機能、表現形式、談話構造の3つの側面から日本語における「ほめ」表現の特徴について質的な分析を行った。この研究によると、「ほめ」は、提示行為と評価行為とを同時に遂行する支援行為であり、その機能に基づき、ある目的を達成する手段として運用されることがある。また、後続連鎖について、熊取谷（1989）は、後続連鎖は評価対象物により多くの興味を示すことにより、連帯感を強めることであり、主に詳細情報の要求とほめの増幅という2つの行為がなされることが多いと指摘している。

日本語の「ほめ」に関する日中対照研究に関しては、増田（2009）、王（2017）等がある。

増田（2009）は、談話完成テストに基づいて、日本語母語話者と中国語母語話者では教師の友好的な「ほめ」に対して学生がそのようには捉えない、あるいは、「ほめ」に対する学生の返答に教師が自分自身の文化的背景から判断して、友好的に感じられないなどの問題が生じる危険性があると述べている。

王（2017）は、日本と中国での自然会話をデータとして、「ほめ」の談話の前に行われる「先行連鎖」を中心に、談話レベルでの日本語と中国語の「ほめ」の実態を比較対照した。その結果、次の2点が明らかになった。

- ① 先行連鎖の有無については、日本語と中国語ともに、ほめる側は「ほめ」や相手に関連する話題や事柄を導入してから、「ほめ」を自然に行う傾向がある。
- ② 先行連鎖に用いられるストラテジーについては、日本語と中国語ともに「質問」、「確認」、「情報提供」といった表現形式が多用されていることが共通してみられた。

なお、王（2017）は中国語においては、とりわけ、相手とは親しい関係にある場合では、ネガティブに評価しているような形式を使用したり、比較したりすることで「ほめ」を引き出す用例が観察できたと述べている。

2. 2 本稿の研究課題

これらの先行研究は、「ほめ」の談話における「ほめ」の表現や「ほめ」に対する返答を明らかにする点においては役立つが、以下の2つの問題点がある。

- ① 使用された日本語のデータは内省、シナリオ資

料、或は、会話を収集する前に協力者にほめてくれるよう頼んだものであるため、どこまで実際の会話を反映できるか。

- ② これまでの中日対照研究では談話構造の視点から「ほめ」の談話を分析する研究が管見の限り少ないため、中国語と日本語との「ほめ」の談話の対照研究が求められる。

そこで本稿では、実際の日本語と中国語の会話をデータとし、「ほめ」の談話の後続連鎖における話題の展開を分析することで、日本語と中国語の「ほめ」の談話の特徴を明らかにすることを、研究課題にする。

3. 研究データの概要

本稿で用いた研究データは、松村・李（2012）では李曦曦氏が収集した日本語の自然会話、松村・単（2017）では筆者（王欣）が収集した中国語の自然会話である。会話協力者は、日中それぞれ、20代から50代の、福岡県在住の日本語母語話者11名（男性6名、女性5名）と、中国河北省在住の中国語母語話者17名（男性8名、女性9名）である。

協力者のコーディングについては、数字は年代を表し（例えば、2の場合は20代を表し、3の場合は30代）、Jは日本（Japan）、Cは中国（China）、M・F（男性Male・女性Female）を表し、A-Dは組ごとの発話者の順番を表すものである。

4. 調査結果と分析

本節では、日本語と中国語の「ほめの談話」における後続連鎖及び話題の展開の特徴を詳しく分析していきたい。実際の発話のやりとりでの談話展開の仕方を示すため、連続した発話の会話データを引用する。

(1) 中国語の会話データ

これは2人の親しい知人（3CMC、3CMD）間の会話の一部である。2人は、3CMDの娘のことについて話している。以下、会話協力者の詳細を示す。

会話協力者	性別	出身地	職業
3CMC	男	中国河北省唐山市	会社員 (3CMDと違う会社)
3CMD	男	中国河北省唐山市	会社員

（斜字+太字：「ほめ」の表現 下線：「ほめ」に対する返答 //:発話の重複）

01 3CMC: 喂, 3CMD, 你闺女多大了?

02 3CMD: 呃…6周多点吧

- 03 3CMC: 6周多点刚? った?
- 04 3CMD: 嗯呐。
- 05 3CMC: 昨天晚上看那个视频, 家(伙), 她爷给录的吧。
- 06 3CMD: 她奶。
- 07 3CMC: 她奶呀。
- 08 3CMD: 她奶给录地, 天天读课文呢。
- 09 3CMC: **我说那哪儿像6岁的孩子, 那小课文读的, 那好啊。**
- 10 **这是多少字, 6岁就认识这么多字?**
- 11 3CMD: 呃, 她奶天天让她念的, 教给她念(这家伙), 这个, 完了, 这个认拼音。
- 12 嗯, 反正一天读那么一两篇吧。
- 13 打小就爱看书。
- 14 3CMC: **嗨, 这孩子, 这孩子将来得学习好, 家伙, 这还有感情呢, 朗读的, 什么**
- 15 小公主, 七个什么小公主, 白雪公主。
- 16 3CMD: 《白雪公主和七个小矮人》。
- 17 3CMC: **这朗诵地这有感情呢, 将来得是主持人的材料。**
- 18 3CMD: 哈哈哈哈哈。
- 19 3CMC: **真好啊, 真不错。**
- 20 3CMD: 找你, 完了还得带带我闺女。
- 21 3CMC: 那都是小事。**这是个苗子, 你知道不? 好好培养吧。**
- 22 **这还有感情, 声音还好听, 还洪亮, 唱歌也, 也, 也挺好吧。**
- 23 3CMD: 唱歌也中。这, 这, 就这段时间觉得她这个, 唱歌也不跑调了, 完了也会
- 24 有点舞蹈动作了。今儿下午这不参加, 参加哪儿这, 河北省的一个录制节
- 25 目去了。她们她们, 跳那个, 一个集体舞蹈。
- 26 3CMC: 反(正)那回还是我, 五岁的时候看着的呢, 从那个, 从哪儿演出, 家伙那
- 27 **小动作, 小腰特儿软和, 这也是个, 舞蹈, 舞蹈才能的人呢, 好好培养培**
- 28 **养吧。**
- 29 3CMD: 小孩, 小孩这个, 现在培养这个的多。
- 30 3CMC: 挺好。
- (日本語訳²⁾)
- 01 3CMC: 3CMDさん、娘さん、今何歳?
- 02 3CMD: 6歳とちょっと。
- 03 3CMC: 6歳とちょっとか。
- 04 3CMD: うん。
- 05 3CMC: 昨夜見たよ。あのビデオ。お爺ちゃんが撮
- 06 3CMD: お婆ちゃんだよ。
- 07 3CMC: お婆ちゃんか。
- 08 3CMD: お婆ちゃんは毎日、教科書を読む姿を撮っているよ。
- 09 3CMC: **全然6歳に見えない。すごい。**
- 10 **それ、何文字? 6歳でこんなに読めるの。**
- 11 3CMD: ええ、お婆ちゃんが毎日読ませているの。教えている。ピンインを読ませたりして。
- 12 まあ、1日1つ、2つを読んでいる。
- 13 小さい頃から読書好きだから。
- 14 3CMC: この子、この子、将来はきっと勉強上手だと思う。すごいよ。感情を込めて、朗読なんて。あれ、お姫様、7人の
- 15 なんとかお姫様、白雪姫。
- 16 3CMD: 『白雪姫と七人の小人』。
- 17 3CMC: **本当に感情込めて、きっと立派な司会者になれるよ。**
- 18 3CMD: はははは。
- 19 3CMC: いいね、いいね。
- 20 3CMD: また娘のことよろしくね。
- 21 3CMC: もちろん。娘さんはたまごなんだよ。知っている? ちゃんと育ててね。
- 22 **感情を込めて、声もかわいくて、良く響いて、歌も、歌も、うまいだろ。**
- 23 3CMD: まあまあ、うまい。最近、歌もうまくなってきて、ちょっと踊れるよう
- 24 になった。午後も、あれ、河北省の番組の録画に行ってきた。彼女たち、
- 25 彼女たち、踊った。フォークダンス。
- 26 3CMC: 前回、5歳のを見てたけど、そ、そこで公演している娘さん。ダンスの
- 27 **動作とか、腰も柔らかくて、ダンサーのたまごだよ。ちゃんと、ちゃん**
- 28 **と育ててね。**
- 29 3CMD: 子供、子供、いま稽古させる親が多いよ。
- 30 3CMC: (それは) いいね。

まず、ここでの話の内容とやりとりの流れを概観する。1行目では、まず、3CMCが3CMDの娘の話を持ちかけている(L01)。そして、その後のやりとりでも、2人ともそれを中心的にして話を進めている。9行目から「全然6歳に見えない。すごい。それ、何文字? 6歳でこんなに読めるの」(L09-10)と最初にほめている。3CMDは「お婆ちゃんが毎日読ませているの。教えて

いる。ピンインを読ませたりして。まあ、1日1、2本を読んでいる。小さい頃から読書好きだから」(L11-13)と自分の娘の情報を更に提供し、応答している。これは、最初の隣接ペア³⁾と考えられる。その後の展開は主に「ほめ」と「ほめ」に対する返答のやりとり (L14-16、L17-18、L19-20) である。具体的には、3CMCの「ほめ」に対して、3CMDは18行目では笑いながら受け止めたり、20行目では謙遜したりする等で、3CMCの「ほめ」を素直に受け止めていることが窺える。

(日本語訳⁴⁾)

- 31 3CMD: 不能输在起跑线上。
 32 3CMC: 孩子的梦想必须帮她实现。想干啥就干啥。
你看你闺女, 这个朗读能力,
 33 **主持啊, 跳舞啊, 都没的说。比同人的孩子来说, 都强太多呢。挺稀罕你闺女。特招人稀罕。(现在这个) 聪明伶俐, 嘴儿还甜。**
 36 3CMD: 说话唠嗑, 也跟上来了呗。
 37 3CMC: **也跟上来了。她是聪明。** 这个跟父母, 孩子从小的教育离开, 离不开父母。
 38 这个跟父母有直接关系。// 你看这孩子的第一启蒙老师就是父母。
 39 // 你这孩子跟谁一起长大就学谁。
 40 3CMD: // 是。
 41 // 跟谁随谁, 是吧。
 42 3CMC: 是, 跟谁随谁, 人是环境的产物。是吧。你到哪个环境他就成为谁。这引领孩子特别重要。
 43 (撇嘴) **不错啊, 这闺女, 绝对可以。总是“大大”, “(3CMC) 大大”, 人总是这个, 跟那亲亲热热的, 这孩子, (撇嘴), 挺招人稀罕啊。真, 真。**
 46 3CMD: 不怯场, 也不认生, // 跟谁都自来熟 //。
 47 3CMC: // 哦, 是。 // **真挺好, 真不错。**
 31 3CMD: 子供の頃から負けてはいけないんだ。
 32 3CMC: 子供の夢は必ず守らなくてはいけない。自分の考えで生きていけばそれでいい。
 33 ほら、娘さん、この朗読能力、司会能力、ダンスも、完璧。
 34 同じ年の子供より、すごいよ。惚れた。思わず好きになっちゃう。
 35 賢いし、とてもお利口さんだし。
 36 3CMD: まあ、良くしゃべれるようになった。
 37 3CMC: 良くしゃべるね。賢いよ。 これは親と、子

- 子供の教育ね、どんな子供に育つか親次第。
 38 (はい) 親は子供の最初の先生。//
 39 どんな子供に育つか親次第。//
 40 3CMD: // そうね。
 41 // 親次第ね。
 42 3CMC: そう、親次第。環境が人を作る。だろ。環境によって違う。これが、子供にとってはすごく大事。(舌を鳴らす) いいね。娘さん。すごい。いつも「(3CMCの苗字) 叔父さん」、「叔父さん」と呼んで、人懐っこくて、
 45 この子、(舌を鳴らす)、誰でも思わず惚れちゃう。とても、とても。
 46 3CMD: 気後れせず、人見知りせず //、人懐っこいね。//
 47 3CMC: // ええ。
 // いいね、いいね。

31行目では、3CMDは一見話題を変えているように見えるが、実はそうではない。これは、今までの話題(3CMDの娘)に関連しており、話をそらすことで3CMCからの「ほめ」を返答しているからと考えられる。その後、しばらく子供の教育について話しているような展開しているが、33行目から再び3CMDの娘の話に戻り、「娘さん、この朗読能力、司会能力、ダンスも、完璧。同じ年の子供より、すごいよ。惚れた。思わず好きになっちゃう。賢いし、とてもお利口さんだし」と話をまとめて「ほめ」を行う理由を具体的に言い、更に、自分も「惚れた」と「ほめ」を固めているように述べている。最後に、子供の教育について発話しながら、3CMCの娘のことを「いいね。娘さん。すごい」(L43)とほめており、舌を鳴らしながら、「人懐っこくて、この子、誰でも思わず惚れちゃう」(L45)とほめを続けている。

ここまでのやりとりで分かるように、親しい間柄の中国語母語話者同士の間では、2人の親密関係を更に深めるために、ほめる側は、談話展開につれ、「ほめ」の対象に関連する情報を要求・確認しながら、相手のことをほめていることが窺える。また、ほめられる側はほめる側に合わせ、違和感を覚えず情報提供をしながら、「ほめ」を素直に受け止められる傾向にあると言える。

(2) 日本語の会話データ

これは、30代仲良しの友達同士の会話の一部である。3JFAと3JFBとは買い物をして話している。会話協力者の詳細は以下の通りである。

会話協力者	性別	出身地	職業
3JFA	女	福岡県福岡市	会社員
3JFB	女	福岡県福岡市	会社員

(斜字+太字:「ほめ」の表現 下線:「ほめ」に対する返答 //:発話の重複)

- 01 3JFA: 足何センチ?
 02 3JFB: 23。
 03 3JFA: 細いね。
 04 3JFB: うん。意外とね。
 05 意外とかわいらしくできとう⁵⁾。
 06 3JFA: かわいい、かわいい。
 07 3JFB: 私、意外とかわいらしくて言えさ//、
たぶんあれよ。ブラウスをさ//、
 08 その上の白のブラウス、コムサってさ、M
とLしかないとね。
 09 3JFA: //は
 ははは、何? //うん。
 10 はあ?
 11 3JFB: ほいで、M買ったっちゃん⁶⁾。
 12 3JFA: うん、大きかった?
 13 3JFB: ちょっと大きかった。
 14 なんかね、どうも肩幅がないみたいで。
 15 3JFA: ちょっとね。
- この会話では、日本語母語話者の多くの親しい間柄でのやりとりのように、発話の長さは短く、笑いを交えてテンポ良く話が進んでいる。この会話のやりとりを簡単にまとめると、次のようになる。データの冒頭の1行目から3行目にかけては、3JMAは自分の質問「足何センチ?」(L01)に応答した3JMBのことを「細いね」(L03)とほめている。続いて、3JMBの発話「意外とかわいらしくできとう」(L05)に対し、3JMAは「かわいい、かわいい」と2回繰り返して、相手の発話「かわいくできとう」に共感を示すことで、同じ気持ちを持っていることを告げている。その後、7行目の3JFAの発話の「ブラウスをさ、その上の白のブラウス、コムサってさ」(L07)を皮切りに、ブラウスについての新たなトピックが取り上げられる。
- 16 3JFB: かわいいやろ。
 17 3JFA: 華奢。
 18 3JFB: やろ?
 19 3JFA: はははは。
 20 3JFB: カバンもちるけん、なで肩やけん⁷⁾。
 21 3JFA: はははは。
 22 マジで?

- 23 3JFB: うん。
 24 3JFA: これ、かわいいじゃん。
 25 3JFB: うん。
 26 3JFA: ブラウスに合いそうよ。
 27 3JFB: すごい着せられとう⁸⁾感があつた、なんか。
 28 3JFA: 本当?
 29 下になんか、ちょっと着こめば?
 30 3JFB: あっ、そう、すごいね、透ける。
 31 3JFA: スケルトン?
 32 3JFB: うふ、今はくかと思った。
 33 ね、ほら、キャミソール着らないけん⁹⁾。

ここで注目したいのは、16行目「かわいいやろ」に対して、相手に嫌みを感じさせないように「かわいい」ではなく、「華奢」(L17)という表現を選んでいることが分かる。最後には、3JMAが言ったかわいいブラウスに対して、「すごいね」と述べている。この字面から見れば、驚きや感心を表しているが、実際には、ここでは、「いいと思うけど、私は買わない」、という発話の本音も窺える。なぜならば、それに続く「ほら、キャミソール着らないけん」(L33)と発話しているからである。

このように、この2人の会話では、「かわいい、かわいい」(L06)、「華奢」(L17)、「すごいね」(L30)は気配りの表れという見方をすることができる。そのような観点からすると、日本語母語話者同士では、人間関係を良好に保つために、相手に対する理解・同意を示したり、「建前」と「本音」を使い分けたりする等で、自然に「ほめ」が進んでいくように見せることが明らかになった。

5. 考察とまとめ

本節は、中国語と日本語の自然会話における「ほめ」の談話の後続連鎖及び談話展開のスタイルについて考察する。

前節での中国語の「ほめ」の談話に関する特徴をまとめると次の通りである。

ほめる側:

急テンポな展開をして、「ほめ」の対象に関連する情報を要求し、「ほめ」を持ち出し続けている。

ほめられる側:

ほめる側に合わせて、話題に関連する情報を提供し、素直に「ほめ」を受け止めている傾向にある。

日本語の「ほめ」の談話に関する特徴は次の通りである。

ほめる側:

親しい間柄であっても、相手に嫌みを感じさせないように、相手の心情を忖度し、「ほめ」の表現を選びながら、

自然に「ほめ」を流している。

ほめられる側：

暗黙裏にほめる側の気持ちを了解しており、自然に会話が流れているように見える。

しかし、いかなる要因で「ほめ」による中日間の違いが生じてしまうのか、以下に分析する。

国立国語研究所（2006）では、相手の対人的欲求、談話展開上の欲求などを気づかい、相手を立てようとする心配りのことを「配慮」としている。いかなる国・文化においても、より円滑な人間関係を構築するためには、相手のことを配慮することが必要である。例えば、日本語母語話者も中国語母語話者もほめられた場合、「ほめ」を同意して受け入れてしまうことから生じる自画自賛のリスクを回避するために、謙遜を示したり、「照れ」を示したりすることで、「配慮」の気持ちを表している。

日本語と中国語の「ほめ」の談話から見られたように、「配慮」が両言語においては重要な要素であるが、文化的価値観、社会的立場など様々な要因が影響しているため、ほめる側とほめられる側は互いに相手の「配慮」をどのように受け止めるかが異なっており、日本と中国の異文化間コミュニケーションにおいては誤解のもとになることがあり得るであろう。調査の分析結果から判明したように、「ほめ」の談話の見られた「配慮」に対しては、日本語母語話者と中国語母語話者の間には明らかな違いが現れた。

具体的には、日本語における「ほめ」の談話では、相手の都合や相手への負担軽減を考慮し、日本語母語話者の話し手が聞き手に「ほめられた」と感じさせない¹⁰ように配慮している。一方、中国語における「ほめ」の談話では、ほめられる側に評価されるか否かということを考えてほめるのではなく、積極的な「ほめ」で相手に自分の誠意と関心があることを伝えることで、自身の相手に対する好感情の伝達しようとしていることが明らかになった。したがって、中国語母語話者の話し手は聞き手に「ほめられた」と感じさせることを配慮している。すなわち、日本語と中国語ともに相手との関わりを大事にして、良好的な人間関係を目指しているが、どこに重点が置かれているのかが異なっていることが明らかになった。

6. おわりに

本稿では、日本語と中国語の自然会話における「ほめ」の談話の後続連鎖から、日中両言語の談話展開のスタイルの差を考えた。実際のコミュニケーションでは、このような認識のずれに気づかない場合では、摩擦や誤解が

生じてしまい、さらに、時として深刻な問題を引き起こしてしまう恐れがある。したがって、本稿の結果は、日本語母語話者と中国語母語話者間の異文化間コミュニケーションの相互理解の一助になると期待できる。

今後の課題として次の点を挙げる。

- ① より多くの自然談話を視野に入れ、量的分析をすることで、調査結果を一般化にすることが望まれる。
- ② 会話協力者の性別の差や「ほめ」の対象を再考する余地がある。

付記

本論文は日中対照言語学会第37回大会（2017年5月28日、於：東京・大東文化大学）にて発表した内容に加筆修正したものである。

注

- 注1 筆者による訳文である。
- 注2 筆者による訳文である。
- 注3 Schegloff (1986) では、電話の会話の開始部における発話の連鎖 (sequence) を分析する中で、会話には発話者を選択するルールがあり、召喚-応答のようなペアとなる連鎖は隣接ペアと呼ばれている。すなわち、対になった2つのターンから構成されたもので、発話のやりとりの分析の最小単位である。
- 注4 筆者による訳文である。
- 注5 九州の方言である。意外とかわいらしくできている。
- 注6 九州の方言である。買ったんだよ。
- 注7 九州の方言である。カバンもちるから、なで肩だから。
- 注8 九州の方言である。すごい着せられている感があった、なんか。
- 注9 九州の方言である。ほら、キャミソール着らないから。
- 注10 筆者による強調である。

参考文献

【英語】

- Holmes, Janet (1988) Compliments and compliment responses in New Zealand English, *Anthropological Linguistics* 28: 485-508

Chen, Rong; Yang, Dafu (2010) Responding to compliments in Chinese: Has it changed? Journal of Pragmatics 42 (7) : 1951-1963

【日本語】

- 井出祥子 (2006) 『わきまえの語用論』大修館書店
- 熊取谷哲夫 (1989) 「日本語における誉めの表現形式と談話構造」『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』2: 97-108, 広島大学教育学部日本語教育学科
- 大野敬代 (2010) 「日本語談話における「働きかけ」と「わきまえ」-目上に対する「ほめ」と「謙遜」の分析を中心に-」早稲田大学大学院教育学研究科博士論文
- 小玉安恵 (1996) 「対談インタビューにおけるほめの機能 (1) - 会話者の役割とほめの談話における位置という観点から -」『日本語学』15: 59-67, 明治書院
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (1996) 「待遇表現としてのほめ」『日本語学』15 (5) : 13-21, 明治書院
- 増田奈央 (2009) 「教師のほめに対する学生の返答の日中対照研究」『日本言語文化研究』13: 106-121, 立命館大学
- 王欣 (2017) 第18回東アジア日本語・日本文化フォーラム 研究発表
- 松村瑞子・李曦曦 (2012) 平成24年度日本語資料集 九州大学大学院比較社会文化学府 日本社会文化専攻 日本語教育講座
- 松村瑞子・単艾婷 (編集) (2017) 平成28年度日本語資料集 九州大学大学院比較社会文化学府・地球社会統合科学府
- 国立国語研究所 (2006) 『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版

A Study of Compliment Actions in Chinese and Japanese: Focusing on the discourse after the compliments

WANG Xin

This paper's aim is to identify and examine the differences in compliments between Japanese and Chinese people. In particular, it focuses on the discourse after the compliments (post-expansion) and the style of the compliment conversation. The data was selected from 11 Japanese and 17 Chinese collaborators' daily conversation. The results of the research demonstrate that the Chinese ask more about related matters when complimenting their interlocutors. They give more compliments and do so more frequently. When on the receiving end of praise, Chinese people tend to react with pleasure and easily provide more information to the other side. As for the Japanese, when they compliment they use a limited selection of praising words (such as *kawaii*), even if the other party is closely associated with them. Furthermore, they put effort into trying to continue the conversation without focusing on the compliment. On the other hand, when they receive a compliment, they often do not explicitly acknowledge it, although the tacit understanding of the compliment courtesy between the two parties makes the conversation more natural.

キーワード: 「ほめ」の談話 会話分析 自然会話 後続連鎖 談話構造